



久保泉だより

佐賀市立久保泉小学校

学校だより 第 9号

令和8年 7月 3日

文責：校長 中村 佳代

*** 全校イベント～みんなで楽しく～ ***

6月25日（木）に、代表委員会で決定した「全校イベント」を実施しました。児童玄関に置かれている、代表委員会用の「議題箱」の中から取り上げられた「議題」について話し合い、実現する



ことになった活動です。全校のみんなで取り組む活動は、大きく2つ。4年生が担当した「た



しざんもうじゅうがり」と6年生が担当した「ビンゴ大会」です。当日の司会進行は、代表委員会を担当している、運営委員会の子どもたち。「たしざんもうじゅうがり」を体育館で行い、その後、縦

割り班の教室に移動して、「ビンゴ大会」を実施しました。自分たちでゲームの説明や活動の進行を行った4年生。しっかりと準備をし、練習をしてきたのでしょう。とても堂々と、楽しそうに、進める



ことができていました。6年生は、「ビンゴ大会」を成功させるために、自分たちで話し合って、どのような準備をして進めるのか、みんなが楽しむことができ

るように、どんなことができるのかを考えていました。どちらの活動も、学年を問わず全校のみんなが入り混じって、一緒に活動することができていました。「たしざんもうじゅうがり」では、お題になる動物の名前を聞き取って、文字数を数え、仲間を集めます。「こっち、こっち。」「来て、来て。」と呼ばれと、どの子どもともうれしそうです。「ビンゴ大会」では、6年生がビンゴのカードを準備したり、数字を読み上げるためにみんなですべてに録音をしたりしていました。全体の進行も、各班での担当も、役割を決めて、打ち合わせどおりに実施することができていました。自分たちで活動を創り出そうとする姿が見え始めてきています。「みんなですたら楽しいな。」「みんなが楽しんでくれたらうれしいな。」そんな気持ちをもつことができるようになったら、子どもたちの関係も、ますますよくなりそうです。今度は、どんな活動が生み出されるか、今からとても楽しみです。



*** 東名遺跡出前授業（6年） ***

6月29日（月）に、6年生の学級で、「東名遺跡」の出前授業を行っていただきました。社会科の学習で歴史について学び始め、世の中の仕組みの移り変わりについても、少しずつ知識を増やしている子どもたちです。今回は、約8,000年もの昔に暮らしていた人々の生活の様子について知り、新たな発見に知的好奇心をくすぐられたことでしょう。身近なところにもある「東名遺跡」について、たくさんのことを教えていただき、実物にも触れさせていただくことで、子どもたちの「もっと知りたいな。」につながったことだろうと思います。学びが深まっていきそうです。



*** 「のびるタイム」みんな頑張っています!! ***

毎週木曜日、昼の活動は「**のびるタイム（スキルタイム）**」の時間です。国語と算数の学習を組み合わせ、全校で取り組んでいます。「音読・漢字・計算」がセットの15分間です。しっかりと声を出して音読をすると、脳の活性化につながると言われます。また、「漢字前倒し学習」と「百ます計算」にも取り組んでいます。本校の取組については、昨年度もお伝えしましたが、1年生（の保護者様も）は初めてですので改めてお伝えします。今年度も、年度当初から、子どもたちの「学びの土台づくり」の一つとして、「のびるタイム」の時間と国語・算数の初めの「ミニスキルタイム（5分弱）」の時間に、全校で「漢字前倒し学習」と「百ます計算」に取り組んでいます。漢字にしても計算にしても、得手・不得手はあるでしょうが、繰り返し徹底して積み重ね、継続して取り組むことで、確実に成果が表れます。実際、2年生以上の子どもたちは、昨年度の一年間で、取り組み方や学び方を身に付けていますし、その効果も実感していますので、今年度はとてもスムーズに学習を進めています。

「**漢字前倒し学習**」では、1年間に学習する漢字を、年度初めの2～3か月ほどで、一とおり学習してしまいます。「①知っている漢字⇒②読める漢字⇒③書ける漢字⇒④使える漢字⇒⑤いつでも使いこなせる漢字」にしていくイメージです。子どもたちは、6年間で1026字の漢字を学習します。通常であれば、単元の初めに新出漢字として学習するわけですが、それでは、4月に学習した漢字は1年間使い続けるけれども、3月に学習した漢字はわずかな期間しか使わないという状況が生まれます。早い段階で、「すべて読める。とりあえず書ける。」状態になっていると、音読が負担になりませんし、自分の実力に応じて反復練習を行うことができます。5月末時点で、6年生は一とおりの新出漢字の学習を終えています。1年生は、平仮名の学習を終えました。これからは、習熟に入ります。

「**百ます計算**」では、「たし算・ひき算・かけ算・わり算」の四則計算に取り組ませています。1種類の計算を百問、2分間で取り組みます。目的は、「正確に・速く」解くことです。どんな数字の組み合わせがきても、確実に解くことができるようになることです。計算でつまずき、本来の学習の目標ではないところで時間を費やしてしまうことがないように、計算力を身に付けさせていきます。

